

は少なかった。しかし、現在では、秋の活動を中心に1年中、活動を行なっている。

何年前か、一度だけ、会員の1人がこれ以上さつまいも活動をして意味がないと言ったが、私はまだまだ会の活動があると考えている。社会の影響で、会員が刺激を受け、場合によっては、さつまいもの活動が本職より重要になってきた会員もいる。

6 受賞記念会

「川越いも友の会」が4つの文化賞を受賞したので、7月16日受賞記念会を開いた。その賞の贈呈代表者を招き、会員と懇談し、これからのことも話し合った。その時、今まで、「川越いも友の会」が大変お世話になった埼玉県園芸試験場鶴ヶ島洪積畑支場に感謝状を贈呈した。同試験場は「川越いも友の会」の

理事の1人の勤め先であり、同会の発足以来、さつまいも専門技術の提供、珍しい品種の手配、などの援助をいただいている。

7 「川越いも友の会」のこれから

1991年が「川越いも友の会」の受賞記念の年である。時期的には大変良い。1992年が、コロンブスのアメリカ大陸発見以来500周年記念、「さつまいもの川越」の市制70周年記念、「川越いも友の会」の先祖、川越公民館講座「さつまいもトータル学」の10周年記念などである。今年の同会の受賞の刺激もあり、なお、次年の記念行事に力を入れる予定である。全国さつまいも祭、全国さつまいもシンポジウム、『平成甘藷百珍』という料理集の出版、などを企画中なので、ぜひ、応援し、参加してほしい。

第3回アジア馬鈴しょ研究会 開催される

日本種馬鈴しょ協会顧問 塩田 弘 行

■アジアの各地から

去る6月17日より22日まで、第3回アジア馬鈴しょ研究会が、赤道直下のインドネシア共和国、西ジャワ州の州都で海拔700mの高原にあるバンドン市で開催された。

参加国は日本、韓国、台湾、バングラディッシュ、フィジ、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリッピン、スリランカ、タイ、ベトナム、その他オーストラリア、ペルー、カナダ、イギリス、オランダ、イタリーなどで、参加者は約90名であった。

日本からは日本種馬鈴しょ協会顧問塩田弘行のほか、カルビーポテト株式会社常務取締役

役知識敬道氏、農水省北海道馬鈴しょ育種研究室森元幸氏、また国際ポテトセンター(CIP)の研究員になっている渡辺和男氏が、ペルーより参加していた。なお開催国インドネシアからは多くの研究者が参加したが、その中には、日本から国際協力事業団の専門家として、同国に馬鈴しょ関係の技術指導に派遣されている、元農水省種苗管理センター十勝農場長の青木忠文氏も参加していた。

会場となったのは、反植民地主義運動に影響をなしたと言われる1955年のアジア・アフリカ会議の会場となり、現在独立記念館となっている建物の近く、アジア・アフリカ通りに面した由緒あるサボイ・ホームマン・ホテルで

バレイシヨ増収一〇〇〇問答

■三百回余りの講演で、いも作従事者からいただいた千四百余の質問を整理し、これに回答。基本から植付け、収穫・防除までを解説し、厳しさが加わる現代農家に大きな指針を示す好著。北大助教授・吉田稔著 定価七〇〇円 送料二五〇円

清薯源流の砦

■現在の種苗管理センターのいも作関係は、昭和二二年に創設された「馬鈴しょ原種農場」がその出発である。各農場の歴史と現況を報告した本書は、関係者必携の好資料。各農場職員名簿付。いも類振興会編・定価七〇〇円 送料二五〇円

21世紀に向けてのいも作り

■生涯を北海道のバレイシヨ作に投入した著者快心の著作。その視野は需要者の品質要望から国際競争力まで、魚眼レンズのようにひろがり、いも作従事者の今後の指針を示す。

吉田稔著 定価六〇〇円 送料二五〇円

アンデスから食卓まで

■ジャガイモのふるさとアンデスから出発し、その料理法や品種の特性、栽培から食卓への供給までを、オールカラーで紹介。読んで楽しく、為になる小冊子。

田中智著 定価三〇〇円 送料一七〇円

熱帯アジアの馬鈴薯生産

■東南アジアの馬鈴しょ生産の実態を、各国のレポートから翻訳した貴重な資料。とくにシンポジウムでの発表は、わが国馬鈴しょ作に大きな示唆を与えるものである。

あって、パンケットホールでの開会式には、アジア馬鈴しょ研究会会長Dr. SUDJOKO SAHAT、バンドン市長Mr. ATENG WA HYUDI、インドネシア農業省食用作物総局長Dr. DUDUNGの諸氏による歓迎のあいさつがあり、その後2つのホールに分れ、発表対論がなされた。

■活気にみちた発表と意見交換

研究会の会議は、会場での発表者60余名、他に紙上発表が約20名あり、参加各国における馬鈴しょの栽培状況、病害虫、加工、貯蔵、育種、その他問題点の発表があったが、活発な意見交換がなされ、相互理解の促進を得て、国際交流、協力の進展に多くの貢献をなしたものであると思う。内容については、真正種子の栽培関係の発表が目立ったが、後日その概要について、報告する機会を得たい。

最終日は、好天にめぐまれた1日、2台のバスに分乗し、現地巡りが行なわれた。パン

ガレン地方の種馬鈴しょ生産状況、真正種子の試験圃場見学などであったが、昼食時には、炎天下の野外で、多数のジャワ美人に誘導されて会場に入り、華麗な踊りをながめながら過ごしたひとときは、連日の緊張をいやすよい思い出となった。

なお、同研究会は、第1回は1985年日本長崎県、第2回は1988年中国雲南省昆明で開催され、今回の会議の総会で、次回第4回の研究会は、1994年韓国で開催と決定された。

いも類振興情報 第29号

平成3年10月15日発行

発 行 所	財団法人 いも類振興会 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303号室 電 話 03-3588-1040 振替・東京3-110152
印 刷 所	交通印刷株式会社